

# 天中だより



## ダイビング体験

校訓  
自主 協和 強健

天草市立天草中学校  
令和6年9月13日  
文責：校長 瀧森 智

## 体験ざんまいの9月です

台風十号の影響で、二日間臨時休校となりましたが、九月二日から二学期がスタートしました。

二学期は、文化面・体育面でいろいろな行事を予定していますが、九月は各学年の体験学習が行われ、積極的に活動する子供たちの姿が随所に見られました。

### 二年職場体験学習

五日(木)・六日(金)の二日間、南消防署西天草分署・ニューヤマザキデリーストア・もみじ保育園・白鷺館温泉センター・うみ猫食堂にお世話になりました。

体験を通して、仕事を



する上で大切なことに気づき、現在の自分の課題について考える貴重な機会となりました。受け入れていただいた事業所の皆様、ありがとうございました。

### 一年世界遺産学

十一日(水)、崎津集落・崎津天守堂・コレジヨ館などを訪れ、ガイドさんの説明のもと、潜伏キリシタンの歴史や南蛮文化伝来の天草の雰囲気を感じることができました。



### 三年スキューバダイビング体験

十日(火)、天草うみの学校の森校長・徳村さんのご指導のもと、ウエットスーツを着て本格的な機材を使ったダイビングを体験しました。白鶴浜のきれいな海や魚の群れを実際に見て、豊かな自然を確認することができました。



### 二年SUP体験

十二日(木)、サンセツトカフェの玉城さん・田口さん、インストラクターの高原さんのご指導のもと、SUP(スタンダードアップパドルボード)を体験しました。ボードに立ち上がって優雅に海上散歩できた子、悪戦苦闘して海に転落する子など様々でしたが、白鶴浜のきれいな海を満喫することができました。



### 「少年の主張」熊本県大会に出場します!

「少年の主張」熊本県大会が、二十三日(月)に県庁で行われます。本来は八月三十一日に天草市民センターで行われる予定でしたが、台風十号の影響で延期となりました。

この大会に本校三年の川原菜生さんが、天草地区の代表として「天草を日本の宝島へ」を発表



始業式で発表しました

### 「探究」・「発信」の二学期

校長室より

「天草体験学習」では、体験的な活動を通して、子どもたちの郷土を愛する心情を育み、将来子どもたちが故郷天草を離れても、自分たちのふるさとの

天草の豊かな自然や文化に触れ、地域の方々思いを知る体験は、子供たちのこれからの「生き方」に大きな影響を与えます。体験を通して学んだことを、各教科の学習と結びつけて更に探究し、いろいろな方法で発信する取り組みを行っています。

ことを胸を張って語れるようにしたいという思いを込めて、天草小・中学校で系統的な取組を実践しています。

子供たちが主体的に問いを持ち、課題を設定し、解決に向けて行動を起こしていく力を付けていきたいです。

### 今後の主な行事予定

- 【9月】
- 16(月)：敬老の日
- 18(水)～20(金)：第2回定期テスト
- 23(月)：振替休日、「少年の主張」熊本県大会
- 26(木)：駅伝試走(午後)
- 27(金)：英検(放課後)
- 【10月】
- 7(月)：振替休業日(12(土)の分) 駅伝試走(午前)
- 10(木)：通知表配付日
- 12(土)：文化発表会
- 16(水)：郡市駅伝大会
- 17(木)：下校時間移行(SB@18:00)
- 19(土)：県中学生新人ワトレス大会(個人戦)

『天草中学校HP』は、下のQRコードから閲覧できます。ご覧ください。



# 天草地区代表として出場します!~第46回「少年の主張」熊本県大会~

## 天草を日本の宝島へ

天草市立天草中学校三年

川原 菜生

高浜の町は葡萄で掩はれて居る

家毎に棚がある  
棚なき家は屋根に葡萄はす

それを見て南の海の島らしい感じがした

この言葉は、与謝野鉄幹・北原白秋・吉井勇ら、文学史に名を残す詩人たちが、若い頃に九州各地を旅して記した紀行文『五足の靴』に書かれたものです。ここに登場する「高浜ぶどう」はもちろんのこと、東シナ海に沈む夕陽、陶磁器の原料となる良質の天草陶石、白亜の大江天主堂など私の故郷天草町は魅力にあふれています。

しかし、今、私の愛する故郷天草町は大きな問題を抱えています。それは、少子高齢化問題です。現在、天草町の人口に占める六十五歳以上の割合は、五十パーセントを超えており限界集落と呼ばれる状態にあります。このことからわかるように、今まで大切に受け継がれてきた伝統文化や産業を維持することが難しくな

りつつあるのです。それは、与謝野鉄幹たちが「南の海の島らしい」と感じた高浜ぶどうがある風景もなくなる可能性があるということなのです。

実際、高浜ぶどうは戦争や気候変化、病害虫の影響で、一本だけに留まってしまった時期があります。二〇〇九年、これを危惧した高浜地区の住民の手により「高浜ぶどう復活プロジェクト」がスタートしました。若き文豪たちを魅了した、古き良き高浜の風景を甦らせるために、樹齢六十年を超え原木から挿し木で苗を増やしていったそうです。しかし、このプロジェクトを担

つてきた方々も高齢化がすすみます。そのような中で、地域の活性化のために、新たな名産品として「高浜ワイン」作りが進められています。高浜ぶどう復活プロジェクトがスタートして十五年。今年十五歳になる私は、大きな縁を感じます。だからこそ、高浜ぶどうのために何かしたいという思い

が芽生えました。

そこで、昨年の八月、高浜ぶどう収穫ボランティアに参加しました。実際に収穫の手伝いを行うことで、気づいたことがあります。それは、収穫作業は、きつくて大変だということなのです。大きく広がる葡萄棚は、採っても採っても終わりが見えません。また、場所によつては、潜って中腰の体勢で収穫作業をしなければなりません。それに、八月下旬という夏の暑さに、汗が吹き出て止まりません。その中で、六十歳を超える高浜ぶどう保存会の方々が黙々と作業をされていきました。その姿に、私も負けていられないと気合いが入り、最後まで頑張ることができました。



高浜ぶどう収穫ボランティア (R6.9.1)

また、ボランティアに参加することで、高浜ぶどうがいかに大切に育てられているのか、そして多くの人から愛されているのかということを知ることができました。おかげで、私はもっともっと天草町のことが大好きになりました。故郷を愛する心、それがきつと地域活性化の大きな原動力になると思います。



「天草は日本の宝島」。そう断言できるくらい自慢の故郷です。天草町、そして天草地域の魅力をより多くの人に知ってもらうため、これからもボランティアや地域の行事に積極的に参加していきます。そして、いつかそれを世界に発信できるようになりたいです。そのために、私は、大好きな英語の学習を頑張っています。コロナ禍があけ、これから日本、そして、天草を訪れる海外の方が増えると思います。そのような人たちに、自分の言葉でしっかりとコミュニケーションをとりながら、天草の魅力や自分の思いを伝えられるガイドに挑戦したいと思っています。



「Amakusa is a treasure island.  
It has many amazing things.」